

海田小学校教育目標

夢への挑戦「自ら学び 自ら伸びる」

めざす児童像

聞いて 考えて 行動できる子ども
 自他を大切にできる子ども
 目標をもち ねばり強く取り組む子ども
 体力づくりに励む子ども

本年度重点目標

確かな学力の定着

- ・主体的で学び合いのできる授業
- ・基礎基本の定着と活用力の向上を図る。
- ・無解答率0をめざしてあきらめない学習。

豊かな心の育成

- ・自尊感情の育成・自己肯定感を高める。
- ・あいさつ日本一をめざす。
- ・共感的人間関係の育成

体力・耐力の育成

- ・新体力テストの効果的な活用を行う。
- ・外遊びの奨励
- ・体育の授業改善を行う。
- ・欠席0に向けた取組
- ・生活リズムカレンダーの効果的な活用

評価項目2

立ち止まって挨拶ができる。

評価指標

毎朝、校門で立ち止まって挨拶ができる児童 80%

来校者に立ち止まって挨拶ができる児童 80%

1学期評価

毎朝、校門で立ち止まって挨拶ができる児童	79%
来校者に立ち止まって挨拶ができる児童	71%
総合評価	75%

評価基準			
4	3	2	1
児童の評価を踏まえた教師による見取り			
80%以上	75%以上	70%以上	70%未満

自己評価点

3

具体的方策	成果（○）と課題（▼）	改善策
<p>○あいさつ名人表彰</p> <p>○児童と担任による各月2回の振り返りタイム</p> <p>○毎朝、登校時の校門指導</p> <p>○児童会による挨拶運動</p> <p>○西中学校区による挨拶運動</p>	<p>○挨拶名人シールの配布や挨拶名人の表彰は、子どもたちの挨拶への意欲を高め、持続させることができた。</p> <p>○シール配布を昨年よりも、抑え目にしてはいるが、挨拶の質は低下していない。少しずつ「ご褒美」からの脱却が図れてきている。</p> <p>▼挨拶名人シールを、適時、的確に配布することが難しかった。</p> <p>○自分たちの挨拶について振り返る機会ができた。</p> <p>▼学級により、取組への意識の温度差がある。</p> <p>▼「立ち止まって挨拶する意識」が十分高まっていない。</p> <p>▼来校者への挨拶が十分にできていない。</p> <p>○毎日の正門、裏門前での指導により、児童の挨拶の状況を確認するとともに適時、指導することができた。</p> <p>▼登校班長や高学年が下学年の模範となれていない班は、全体的に気持ちの良い挨拶ができていない。</p> <p>○児童会役員の挨拶への意識が高まり、そのことが他の児童へ良い影響を与えた。</p> <p>○学校・地域・保護者・児童・生徒が挨拶を通して関わり合う有意義な機会となった。また、中学生が小学生の良い手本となった。</p>	<p>・挨拶名人シールは、一定期間でその児童に応じた適切な枚数が配布されるようにトータルで合わせていく。</p> <p>・将来、「ご褒美」からの脱却を図るため、挨拶をすること自体に喜びや気持ちよさ、誇りを感じる子を育成することを全教職員が共通認識としてもっておく。</p> <p>・評価の数値を出すだけでなく、毎回、挨拶の意義を確認する。</p> <p>・「先生たちも立ち止まることを頑張っている。」という姿を児童に見せる。</p> <p>・立ち止まる動作が、できにくい児童に対しては、練習カードを配布し教員と一緒に練習する。</p> <p>・来校者の予定が分かる時は、児童に伝え、挨拶を促す。</p> <p>・振り返りタイムの時に、登校班長や高学年には、下学年への影響を与えているという意識をもたせ、模範となるように励ます。</p>